

岡山県感染症週報 2016年 第7週 (2月15日～2月21日)

岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

◆2016年 第7週 (2/15～2/21) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第5週 2類感染症 結核 3名 (70代 男 2名、90代 女 1名)
 第6週 2類感染症 結核 4名 (20代 女 1名、30代 女 1名、70代 男 1名、80代 男 1名)
 5類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名 (70代 女)
 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (70代 男)
 梅毒 1名 (40代 男)
 第7週 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O血清群不明: 20代 男)
 4類感染症 レジオネラ症 1名 (60代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数: インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で 2793 名 (定点あたり 33.88 → 33.25 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
 ○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 75 名 (定点あたり 1.31 → 1.39 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
 ○流行性耳下腺炎は、県全体で 70 名 (定点あたり 0.96 → 1.30 人) の報告があり、前週より増加しました。
 ○感染性胃腸炎は、県全体で 388 名 (定点あたり 7.76 → 7.19 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第8週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 113 施設でありました。(2月22日～25日)

1. [インフルエンザ](#)は、県全体で 2793 名 (定点あたり 33.88 → 33.25 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。岡山県は、『インフルエンザ警報』発令中であり、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市 (55.00 人)、備北地域 (34.33 人)、岡山市 (34.23 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、県内全域で大きな流行が継続しています。学校等の臨時休業は 118 施設から報告があり、第8週も多数報告されています。インフルエンザによる入院患者は 12 名の報告がありました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. [A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で 75 名 (定点あたり 1.31 → 1.39 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、美作地域 (2.83 人)、倉敷市 (2.55 人)、備中地域 (1.43 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に美作地域 (1.33 → 2.83 人) と備中地域 (0.57 → 1.43 人) では、患者の報告が前週より倍増しました。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌 (イチゴのように赤くブツブツしている舌) がみられることがあります。就学前から学童期にかけての小児に多い感染症で、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
3. [流行性耳下腺炎 \(おたふくかぜ\)](#)は、県全体で 70 名 (定点あたり 0.96 → 1.30 人) の報告があり、前週より増加しました。例年と比較して報告数が多い状態が続いています。地域別では、備北地域 (3.25 人)、岡山市 (2.29 人)、備前地域 (1.40 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。
4. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 388 名 (定点あたり 7.76 → 7.19 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備北地域 (12.75 人)、美作地域 (7.83 人)、備前地域 (7.80 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★★★★
突発性発疹		★★★★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★★★★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★★★
細菌性髄膜炎		★★	無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

3月1日（火）～7日（月）は「子ども予防接種週間」です。

4月からの入園・入学に備えて、必要な予防接種をすませましょう。

我が国では、毎年3月1日～7日を「子ども予防接種週間」とし、予防接種への関心と予防接種率の向上を図るため、さまざまな企画や啓発活動を実施しています。

岡山県でも、この期間内に、趣旨に賛同した協力医療機関では、ワクチン接種を行うとともに、ワクチン接種に関する相談にも応じています。また、協力医療機関によっては土曜日、日曜日など、通常の診療時間外の接種も行っています。

[「子ども予防接種週間」について](#)（日本医師会ホームページ）

[岡山県内の協力医療機関一覧表](#)（岡山県医師会ホームページ）

インフルエンザ週報 2016 年 第 7 週 (2 月 15 日 ~ 2 月 21 日)

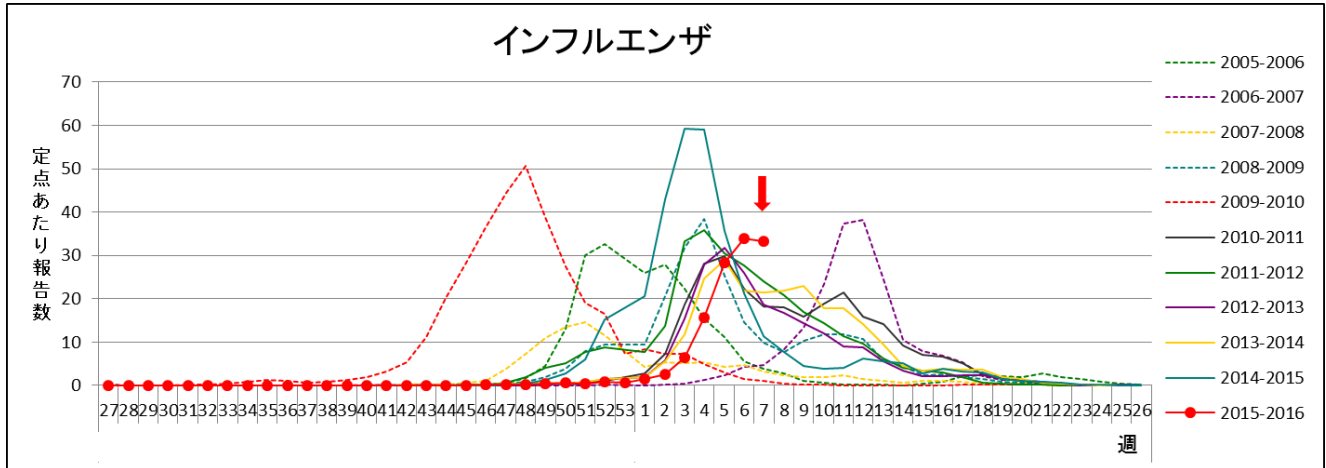
岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 2793 名（定点あたり 33.25 人）の報告がありました。（84 定点医療機関報告）
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 118 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 12 名の報告がありました。

【第 8 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 113 施設でありました。（2 月 22 日 ~ 25 日）



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 2793 名（定点あたり 33.88 → 33.25 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態です。岡山県は、2 月 18 日『インフルエンザ警報』を発令し、広く注意を呼びかけています。

地域別では、倉敷市（55.00 人）、備北地域（34.33 人）、岡山市（34.23 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山市・備北地域・真庭地域・美作地域の 4 地域では、定点あたり報告数が前週より増加し、新たに岡山市・備北地域で発生レベル 3 になりました。

第 7 週学校等の臨時休業は、118 施設から報告がありました。前週（136 施設）より減少したものの、依然として多くの施設から報告されているため、幼稚園・小学校・中学校を中心とした集団の中での感染に注意してください。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠を取る。』など、感染予防に努めてください。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

**◆インフルエンザは流行期に入っています。
さらなる感染予防に努めましょう。**

【 予 防 】

- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50~60%)を保ちましょう。

【 かかったかな？という時には 】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

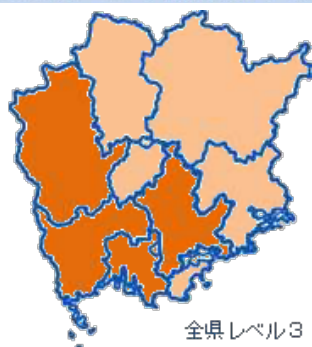
1.地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	2793	➡	備 中	患者数	358	➡
	定点あたり	33.25			定点あたり	29.83	
岡山市	患者数	753	➡	備 北	患者数	206	➡
	定点あたり	34.23			定点あたり	34.33	
倉敷市	患者数	880	➡	真 庭	患者数	64	➡
	定点あたり	55.00			定点あたり	21.33	
備 前	患者数	346	➡	美 作	患者数	186	➡
	定点あたり	23.07			定点あたり	18.60	

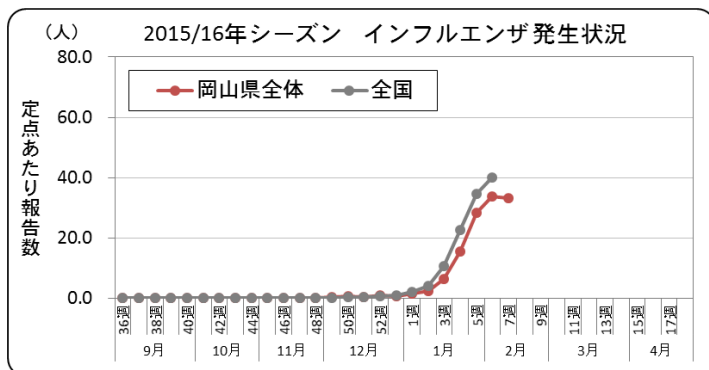
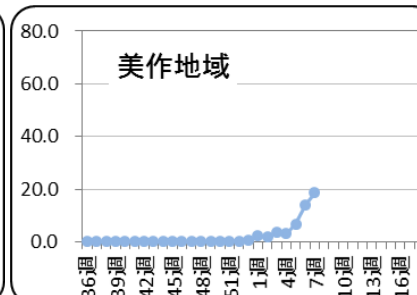
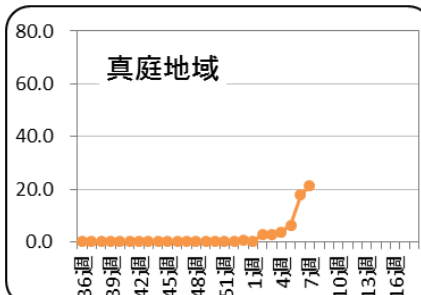
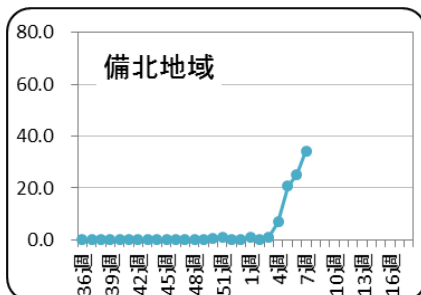
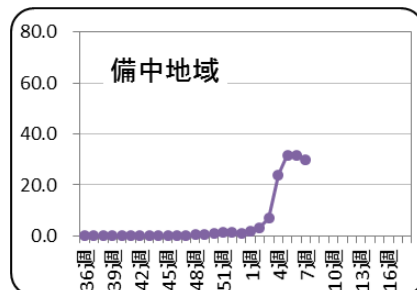
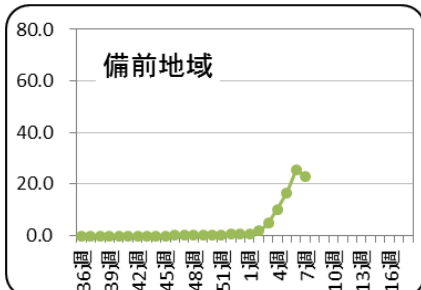
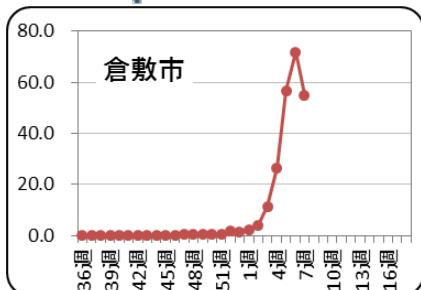
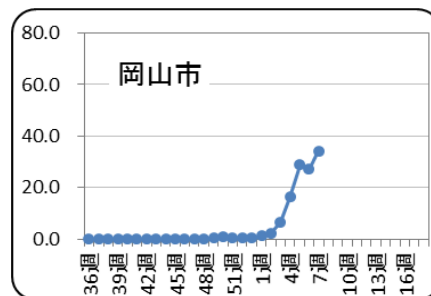
【記号の説明】 前週からの推移
 ↓：2倍以上の減少 ↘：1.1～2倍未満の減少 ➡：1.1未満の増減
 ↗：1～2倍未満の増加 ↑：2倍以上の増加

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

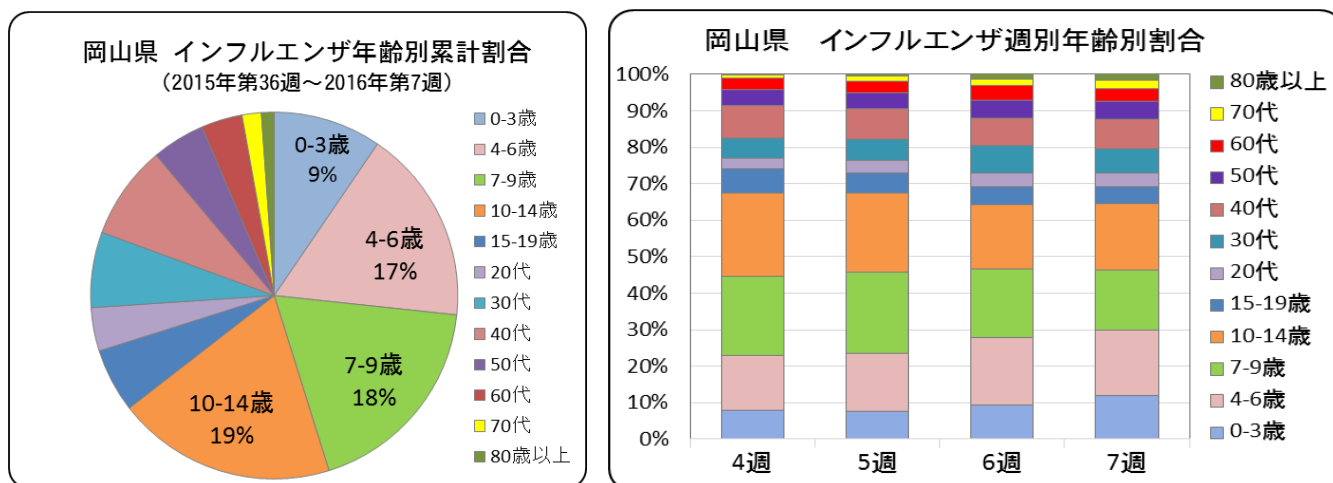
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値	基準値	基準値
0< 10未満		0



全国集計第6週（2/8～2/14）速報値によると、全国の定点あたり報告数は39.97人となり、前週（34.66人）より増加しました。都道府県別では、愛知県（58.50人）、沖縄県（50.81人）、埼玉県（49.13人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、43府県で前週の報告数より増加しました。

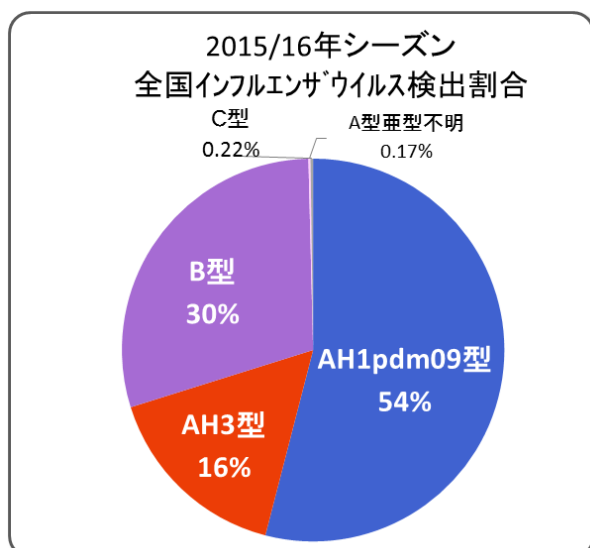
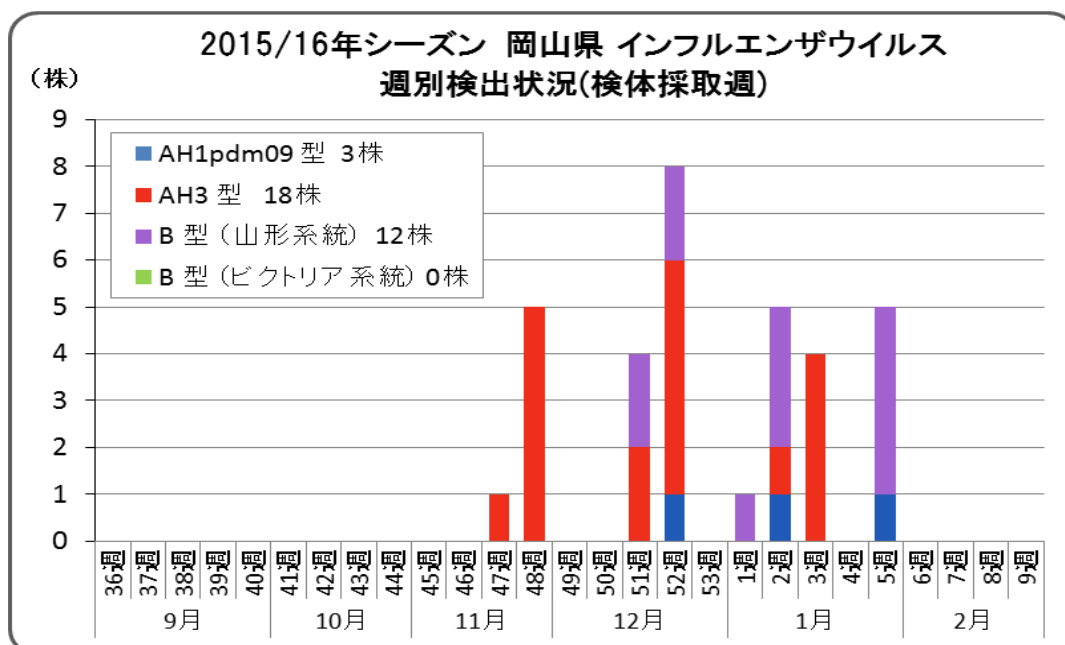
2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、10-14歳 19%、7-9歳 18%、4-6歳 17%の順で高くなっています。週別の年齢別割合をみると、6歳以下の低年齢層の占める割合が徐々に増加しています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

第7週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型 18株 (55%)、B型 (山形系統) 12株 (36%)、AH1pdm09型 3株 (9%) となっています。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 967株 (54%)、B型 527株 (30%)、AH3型 289株 (16%) となっています。(2016年2月19日現在)

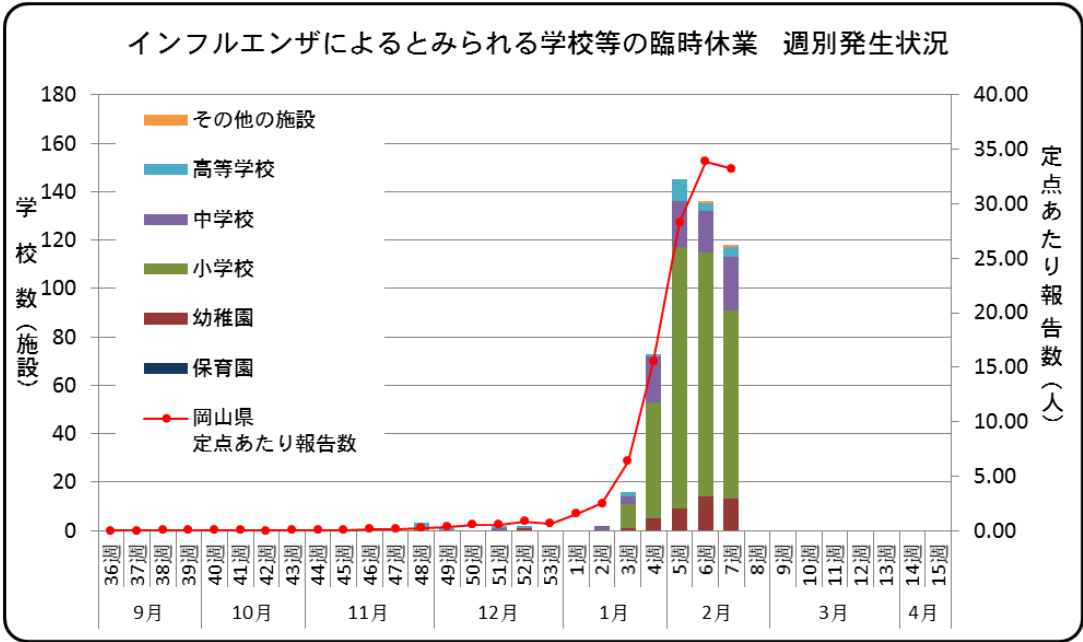
直近の5週間 (2016年第2週～第6週) ではAH1pdm09型の検出割合が多く、次いでB型、AH3型の順となっています。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 118 施設でありました。

【第 7 週 臨時休業施設数】▽岡山市 54 ▽倉敷市 25 ▽津山市 4 ▽備前市 4 ▽瀬戸内市 4 ▽笠岡市 2
▽総社市 2 ▽高梁市 2 ▽新見市 2 ▽浅口市 2 ▽里庄町 2 ▽鏡野町 2
▽勝央町 2 ▽奈義町 2 ▽吉備中央町 2 ▽玉野市 1 ▽井原市 1 ▽赤磐市 1
▽和気町 1 ▽早島町 1 ▽新庄村 1 ▽久米南町 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・ 休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	1696	8397	1276	6209	118	498	4	7	23	83	91	408	H27.11.24
岡山市	818	3738	613	2718	54	202	—	—	7	24	47	178	H27.11.24
倉敷市	373	2549	303	1904	25	147	1	3	1	7	23	137	H27.12.15
備前地域	139	526	118	406	13	37	1	1	6	18	6	18	H27.11.24
備中地域	112	1062	107	828	10	73	—	—	1	15	9	58	H27.11.24
備北地域	42	129	12	72	4	14	0	1	3	9	1	4	H28. 2. 3
真庭地域	4	53	4	53	1	4	—	—	1	4	—	—	H28. 2. 1
美作地域	208	340	119	228	11	21	2	2	4	6	5	13	H28.1.25

2) 臨時休業施設数の内訳

第 7 週：118 施設

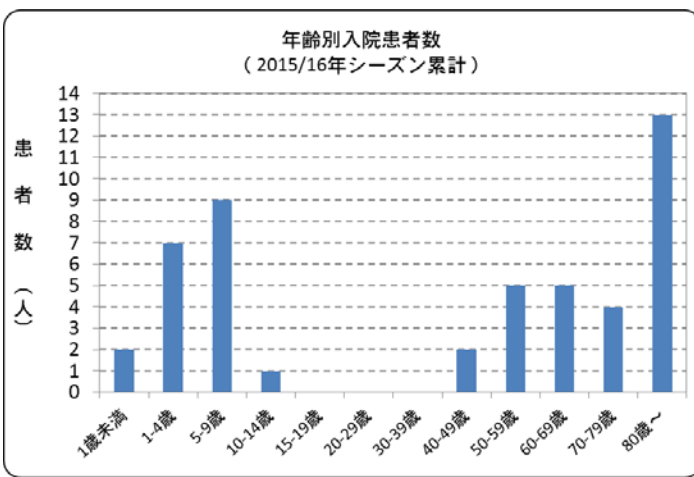
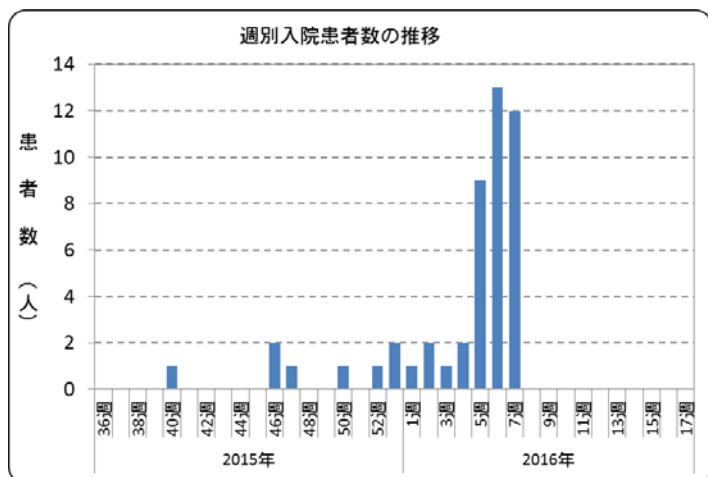
累計：498 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	13	43	78	346	22	83	4	24	1	2

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、12 名（1～4 歳 2 名、5～9 歳 4 名、40～49 歳 1 名、50～59 歳 1 名、70～79 歳 2 名、80 歳以上 2 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 7 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		2	4					1	1		2	2	12
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)												2	2
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず		2	4					1	1		2		10

* 重複あり

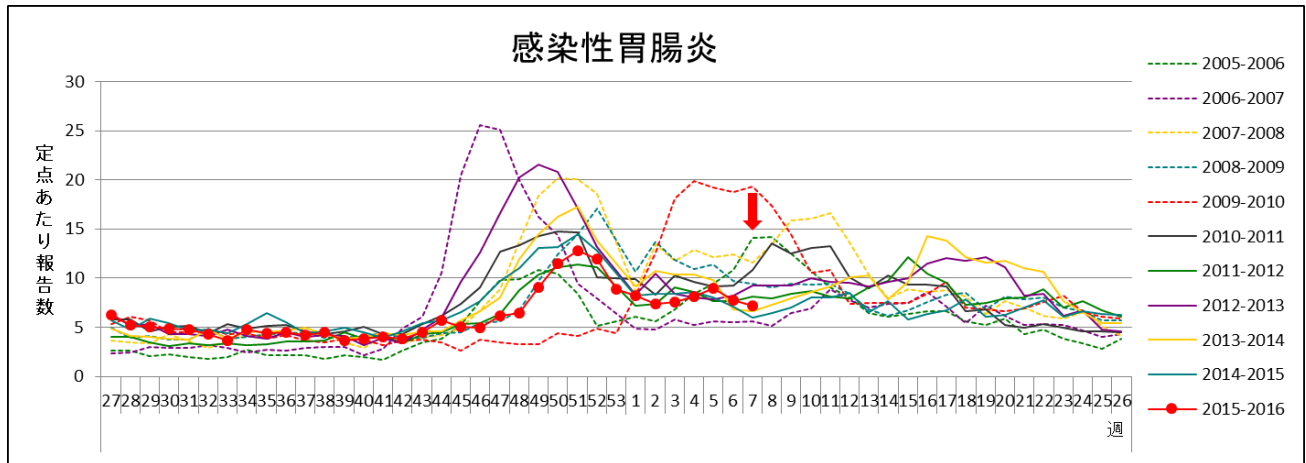
【2015 年 8 月 31 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	2	7	9	1				2	5	5	4	13	48
ICU 入室			1						1	1			3
人工呼吸器の利用			1						1	1	1		4
頭部 CT 検査(予定含)		3							1	1	1	4	10
頭部 MRI 検査 (予定含)				1								1	2
脳波検査 (予定含)		1	1										2
いずれにも該当せず	2	4	8					2	2	3	2	9	32

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2016 年 第 7 週 (2 月 15 日 ~ 2 月 21 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 388 名（定点あたり 7.76 → 7.19 人）の報告がありました（54 定点医療機関報告）。

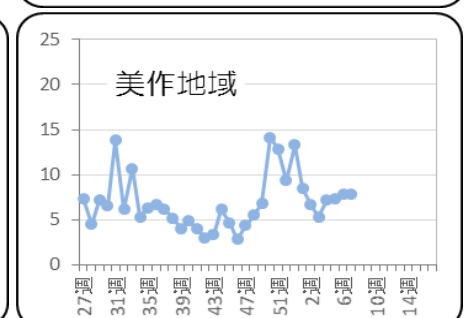
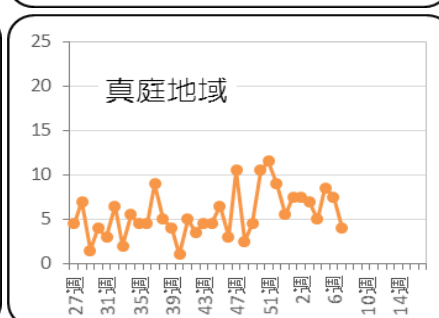
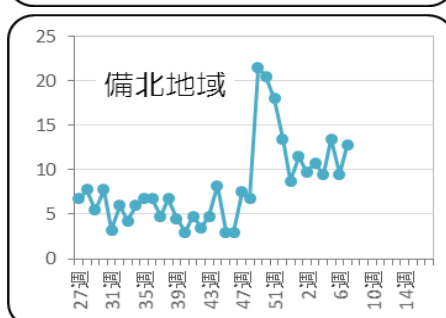
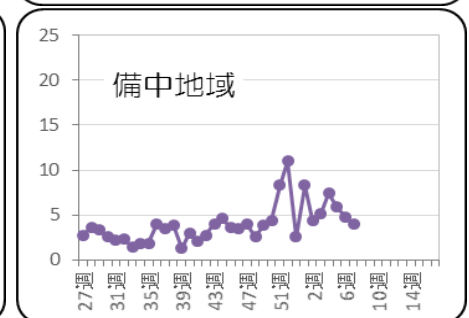
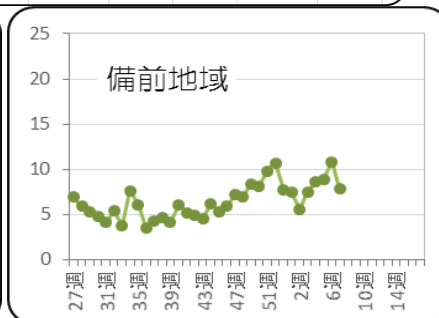
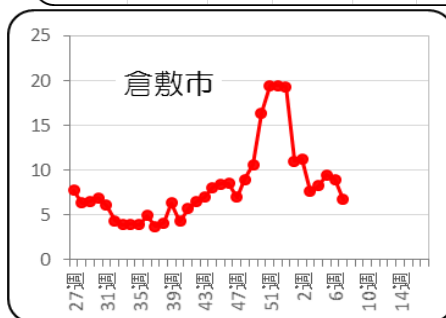
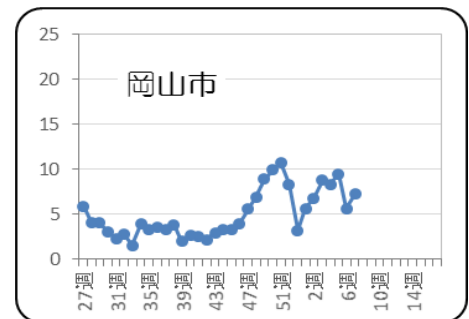
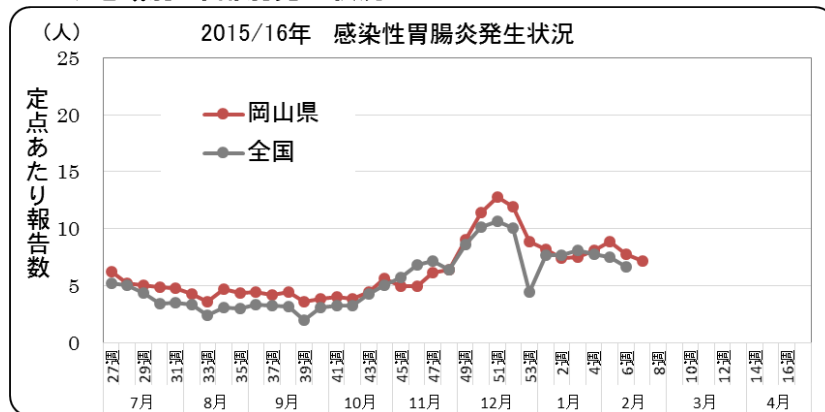


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

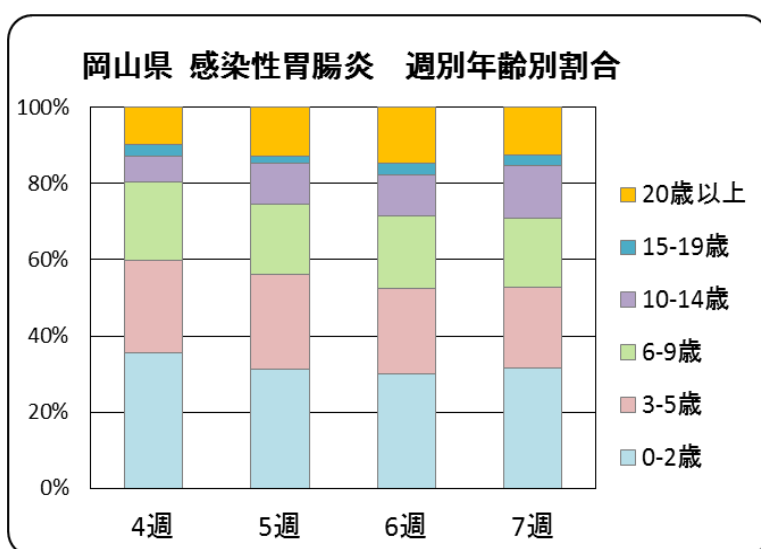
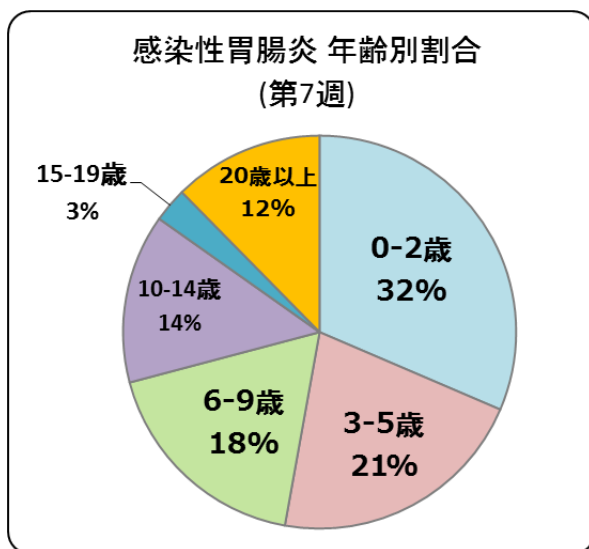
感染性胃腸炎は、県全体で 388 名（定点あたり 7.76 → 7.19 人）の報告があり、前週とほぼ同数でしたが、依然として多くの患者が報告されています。地域別では、備北地域（12.75 人）、美作地域（7.83 人）、備前地域（7.80 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢者の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆地域別・年齢別発生状況



第7週年齢別割合では、0-2歳が32%と最も高く、次いで3-5歳 21%、6-9歳 18%の順となっており、特に10-14歳の割合が前週より増加しました。



◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。アルコールは、ノロウイルスに対して消毒効果が低いとされています。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

保健所別報告患者数（定点把握） 2016年 7週（2016/02/15～2016/02/21）

2016年2月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2793	33.25	753	34.23	880	55.00	346	23.07	358	29.83	206	34.33	64	21.33	186	18.60
RSウイルス感染症	17	0.31	3	0.21	3	0.27	1	0.10	4	0.57	1	0.25	—	—	5	0.83
咽頭結膜熱	10	0.19	4	0.29	1	0.09	—	—	2	0.29	—	—	—	—	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	75	1.39	10	0.71	28	2.55	8	0.80	10	1.43	1	0.25	1	0.50	17	2.83
感染性胃腸炎	388	7.19	102	7.29	74	6.73	78	7.80	28	4.00	51	12.75	8	4.00	47	7.83
水痘	18	0.33	10	0.71	4	0.36	1	0.10	1	0.14	2	0.50	—	—	—	—
手足口病	3	0.06	3	0.21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	13	0.24	7	0.50	2	0.18	4	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	24	0.44	11	0.79	5	0.45	4	0.40	1	0.14	—	—	1	0.50	2	0.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	70	1.30	32	2.29	6	0.55	14	1.40	1	0.14	13	3.25	—	—	4	0.67
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	13	1.08	5	1.00	6	1.50	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1.00	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（－： 0 or 0.00） （空白： 定点なし）

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2016年 7週

（ 2016/02/15～2016/02/21 ）

2016年2月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2793	33.25	753	34.23	880	55.00	346	23.07	358	29.83	206	34.33	64	21.33	186	18.60
咽頭結膜熱	10	0.19	4	0.29	1	0.09	—	—	2	0.29	—	—	—	—	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	75	1.39	10	0.71	28	2.55	8	0.80	10	1.43	1	0.25	1	0.50	17	2.83
感染性胃腸炎	388	7.19	102	7.29	74	6.73	78	7.80	28	4.00	51	12.75	8	4.00	47	7.83
水痘	18	0.33	10	0.71	4	0.36	1	0.10	1	0.14	2	0.50	—	—	—	—
手足口病	3	0.06	3	0.21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	13	0.24	7	0.50	2	0.18	4	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	70	1.30	32	2.29	6	0.55	14	1.40	1	0.14	13	3.25	—	—	4	0.67
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	13	1.08	5	1.00	6	1.50	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第7週 2016/02/15～2016/02/21)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2793	7	19	94	95	115	144	174	189	183	140	138	507	128	106	184	226	135	103	60	46

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	17	6	5	4	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	10	—	1	4	3	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	75	1	1	4	5	4	5	13	8	7	8	7	7	—	5
感染性胃腸炎	388	5	18	67	32	34	28	21	20	20	14	16	54	11	48
水痘	18	—	1	—	2	3	5	—	4	1	1	—	1	—	—
手足口病	3	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	13	—	—	—	1	—	2	1	2	1	1	1	4	—	—
突発性発疹	24	—	8	13	—	1	—	—	—	—	—	1	1	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	70	—	—	2	3	10	11	9	13	3	5	2	9	—	3

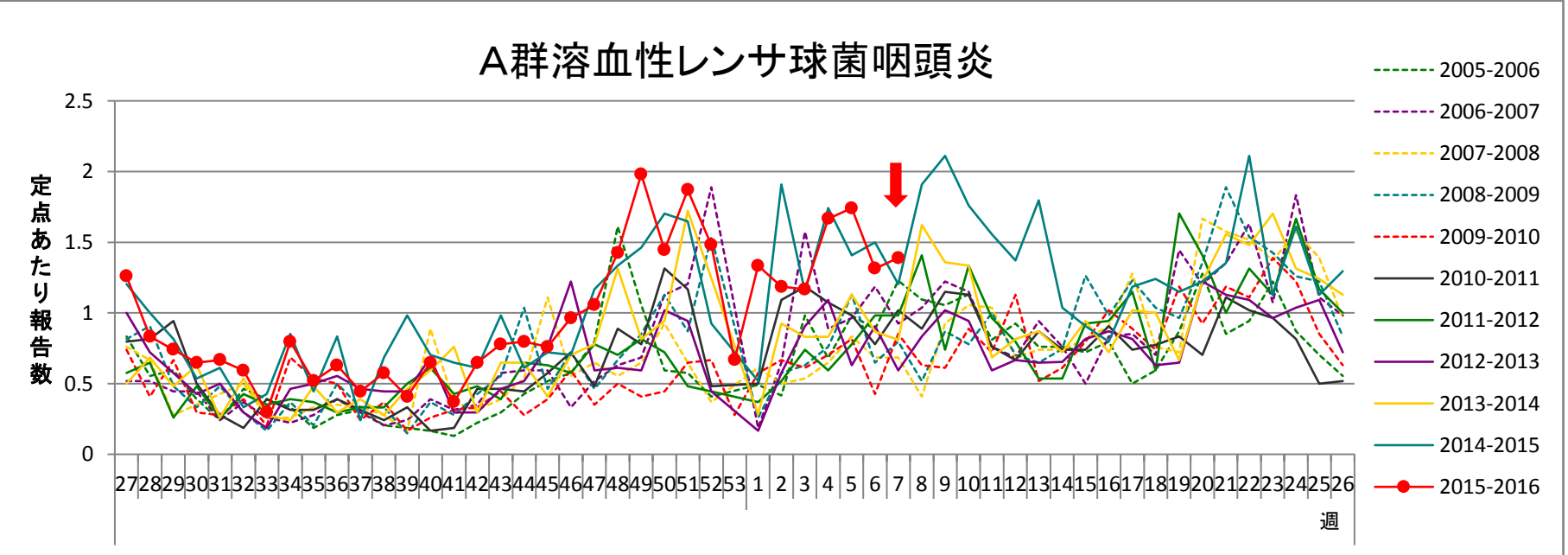
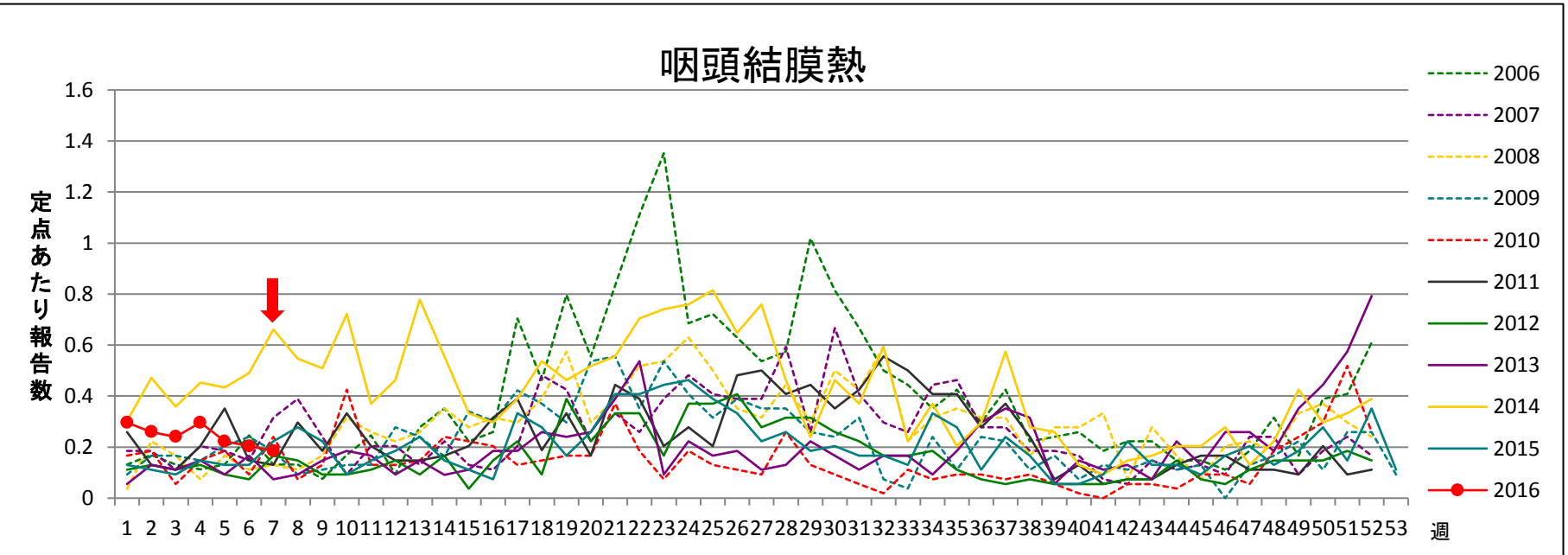
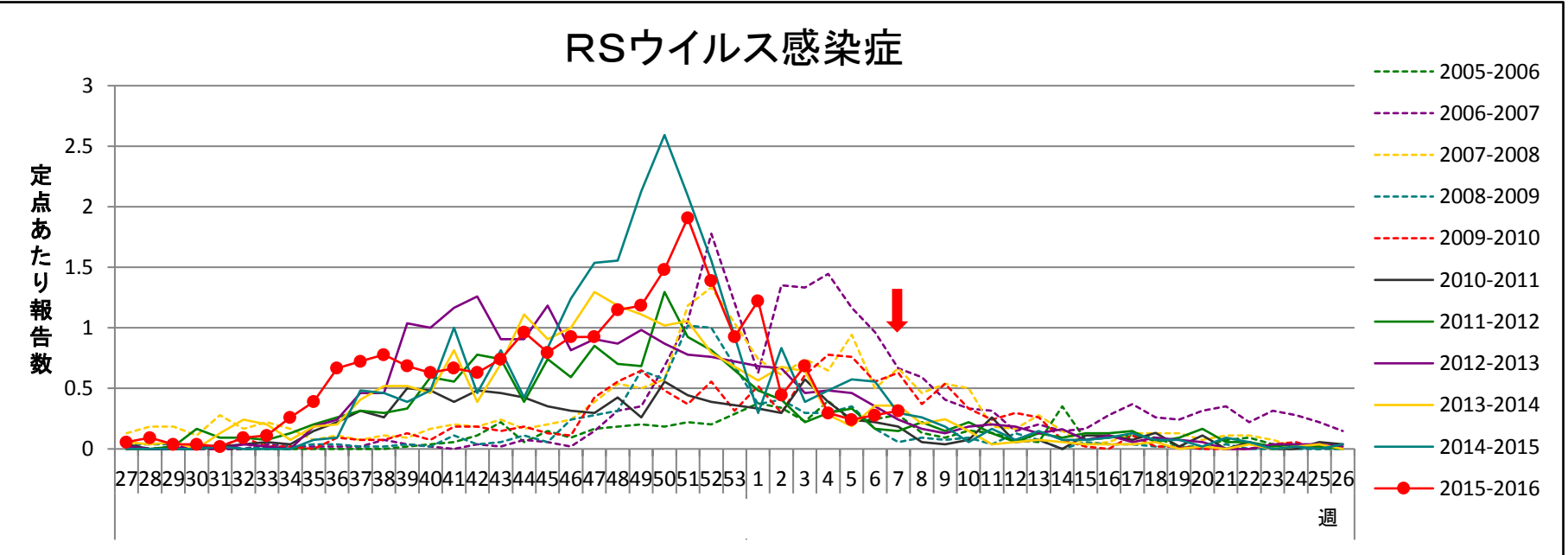
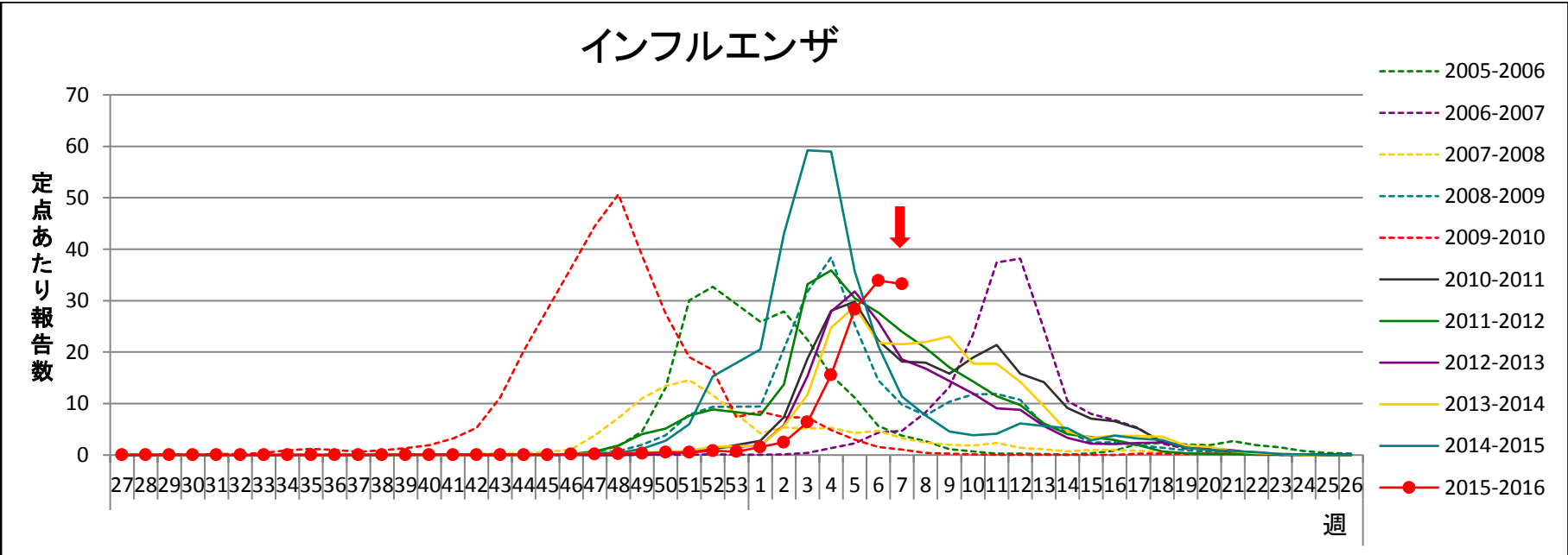
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	13	—	—	—	—	—	1	1	—	—	1	—	1	—	—	5	3	—	—	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	2	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

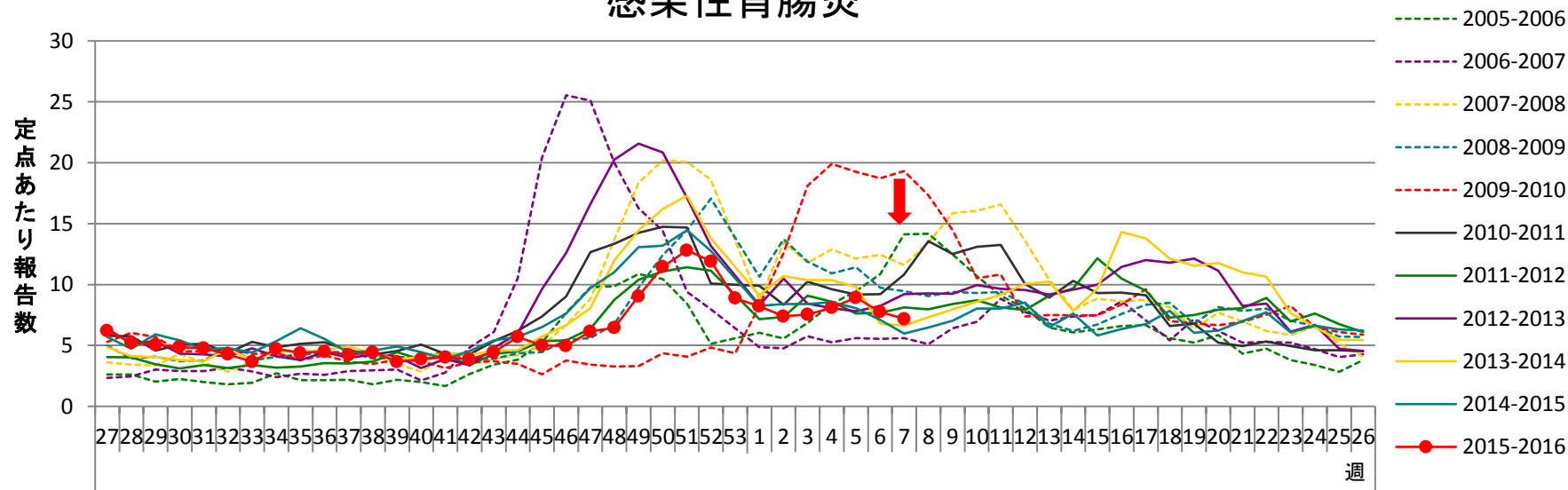
(— : 0)

2016 年 7 週

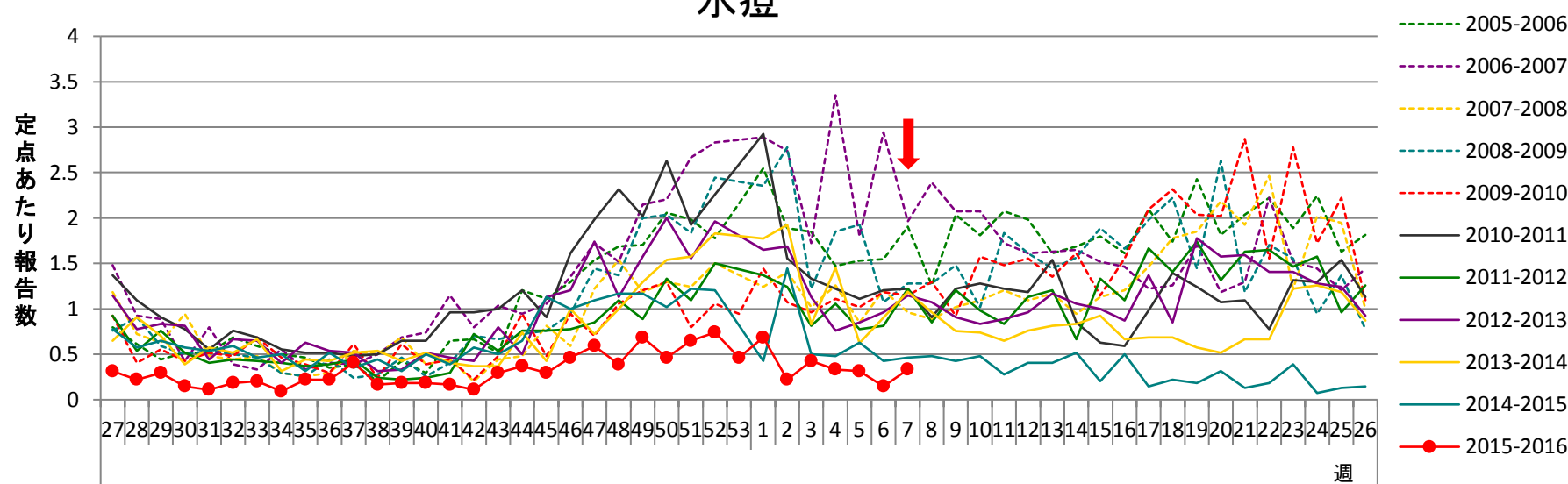
分類	疾病名	2016			疾病名	2016			疾病名	2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	－	41	371	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	2	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	63
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	－	3	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	1	9
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	1
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	ジカウイルス感染症	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	－	－
	腎症候性出血熱	－	－	－	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－
	炭疽	－	－	－	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	1
	デング熱	－	－	2	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－
	ニパウイルス感染症	－	－	－	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	－	3
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	－	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－
	発しんチフス	－	－	－	ポツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	2
	野兔病	－	－	－	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	1	5	28
	レプトスピラ症	－	－	－	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	－	17	ウイルス性肝炎*3	－	1	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	2	34
	急性脳炎*4	－	3	14	クリプトスポリジウム症	－	－	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	1	2	後天性免疫不全症候群	－	－	21	ジアルジア症	－	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	3	35
	水痘(入院例に限る。)	－	－	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	3	24
	播種性クリプトкокクス症	－	1	1	破傷風	－	－	－	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	－	風しん	－	－	－	麻しん	－	－	－
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



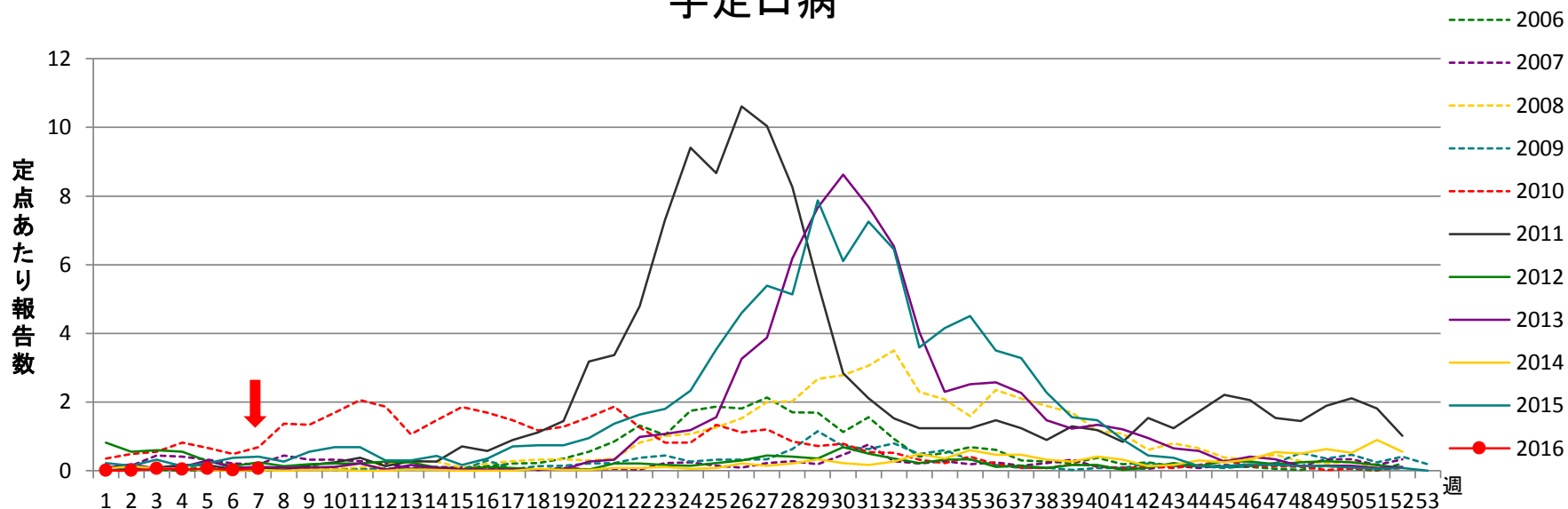
感染性胃腸炎



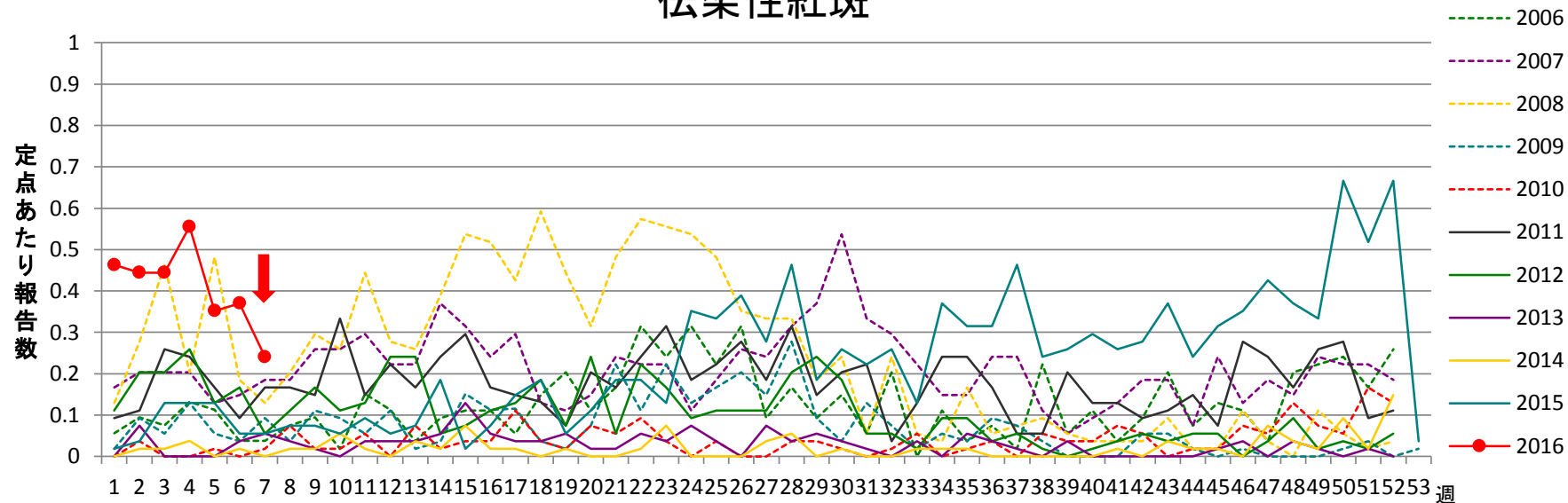
水痘



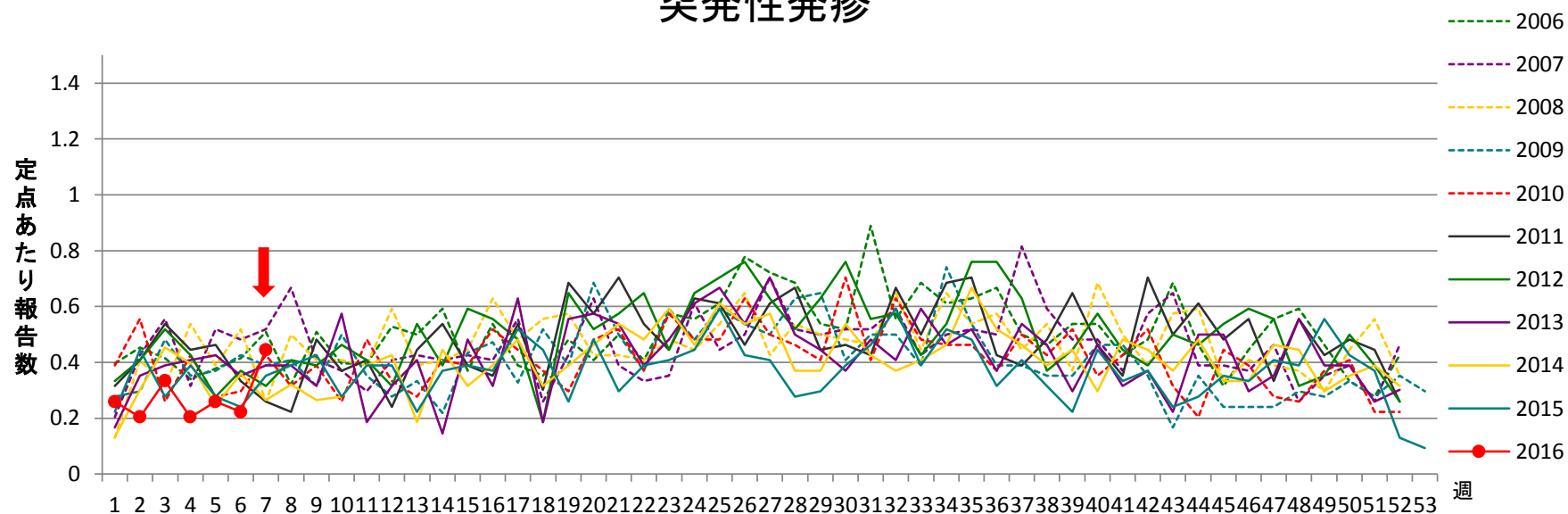
手足口病



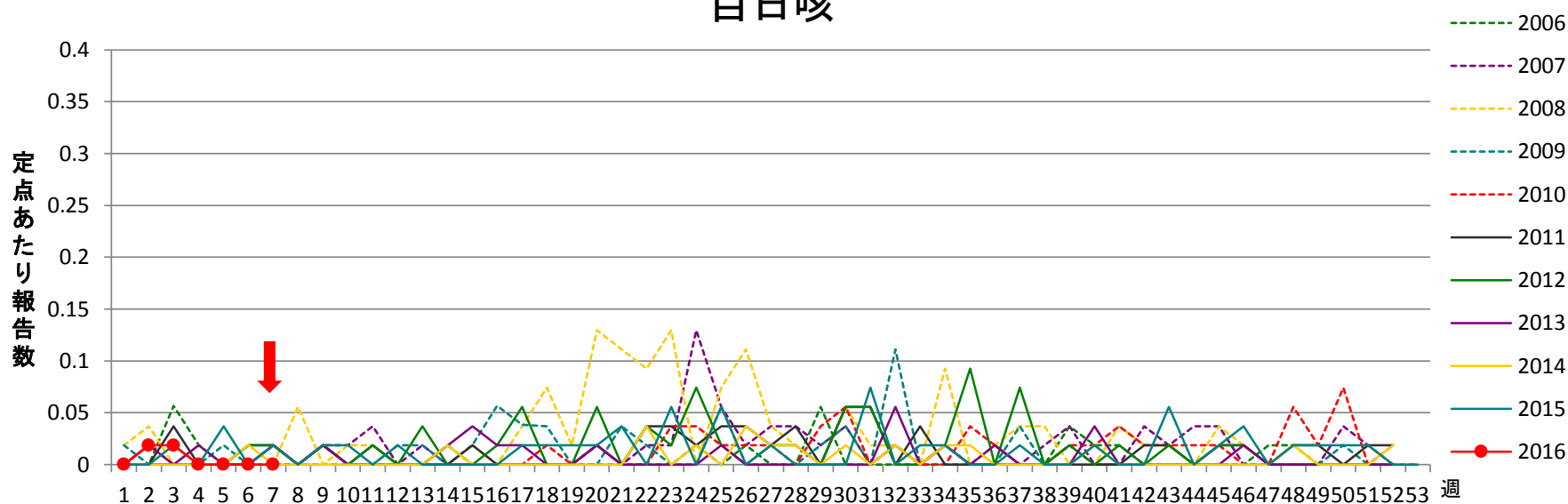
伝染性紅斑



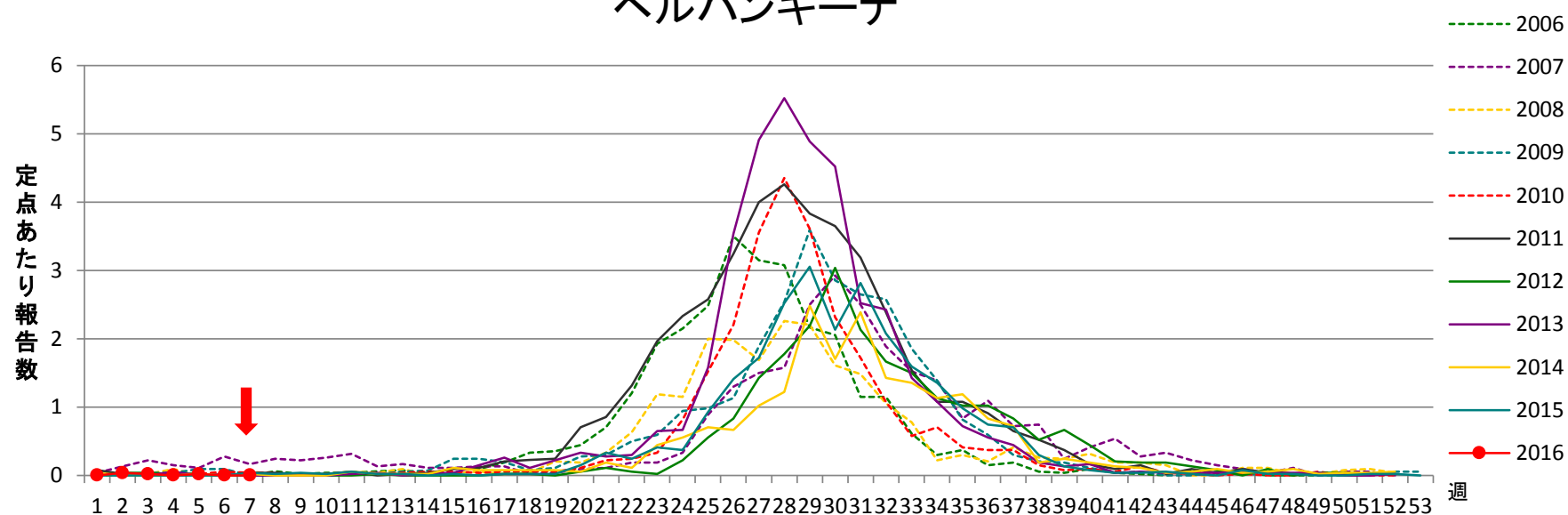
突発性発疹



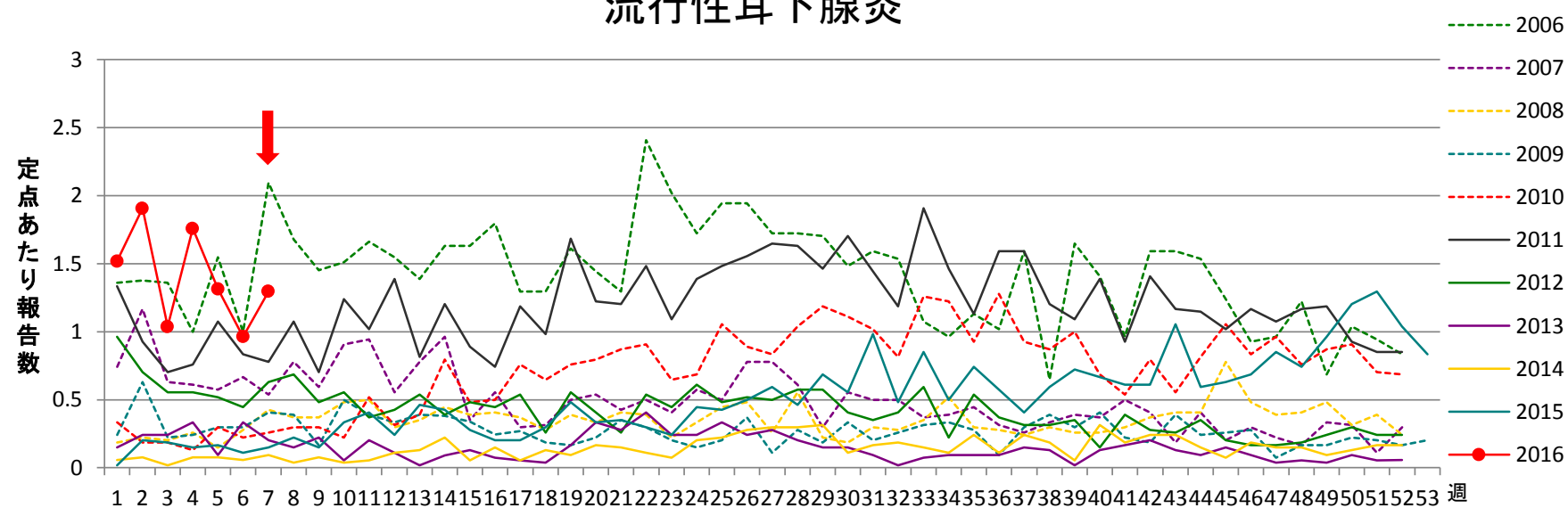
百日咳



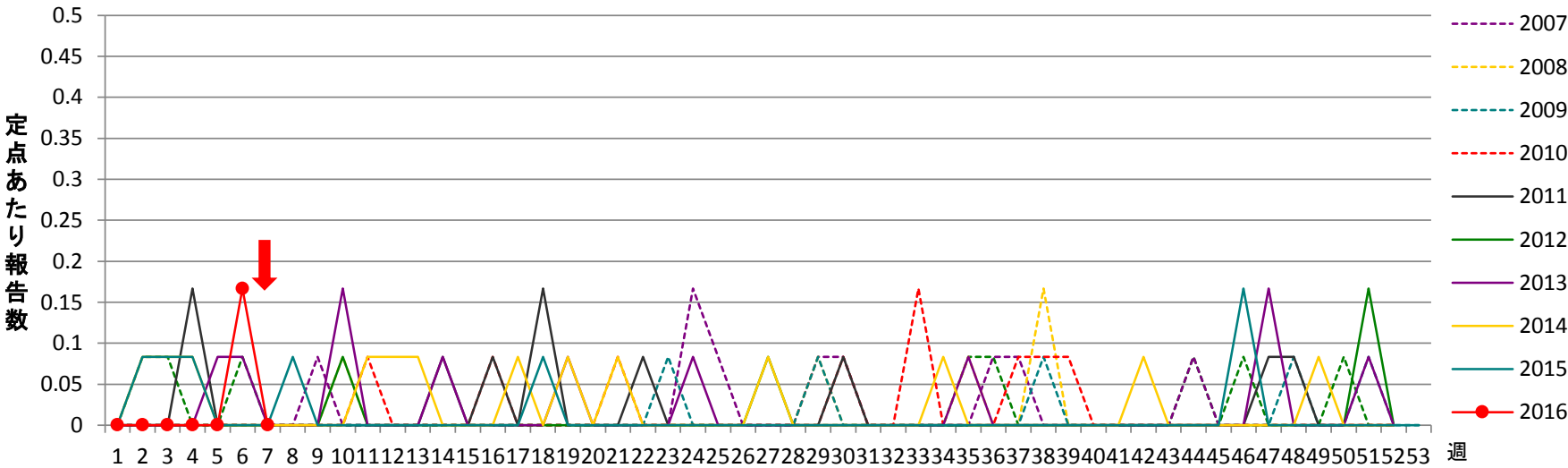
ヘルパンギーナ



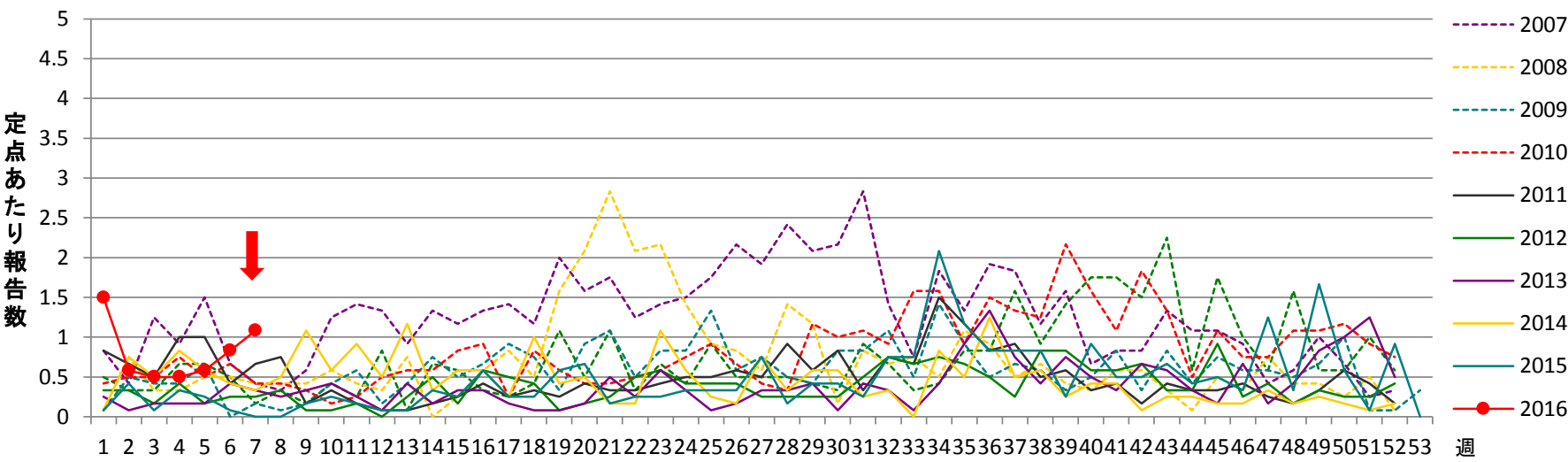
流行性耳下腺炎



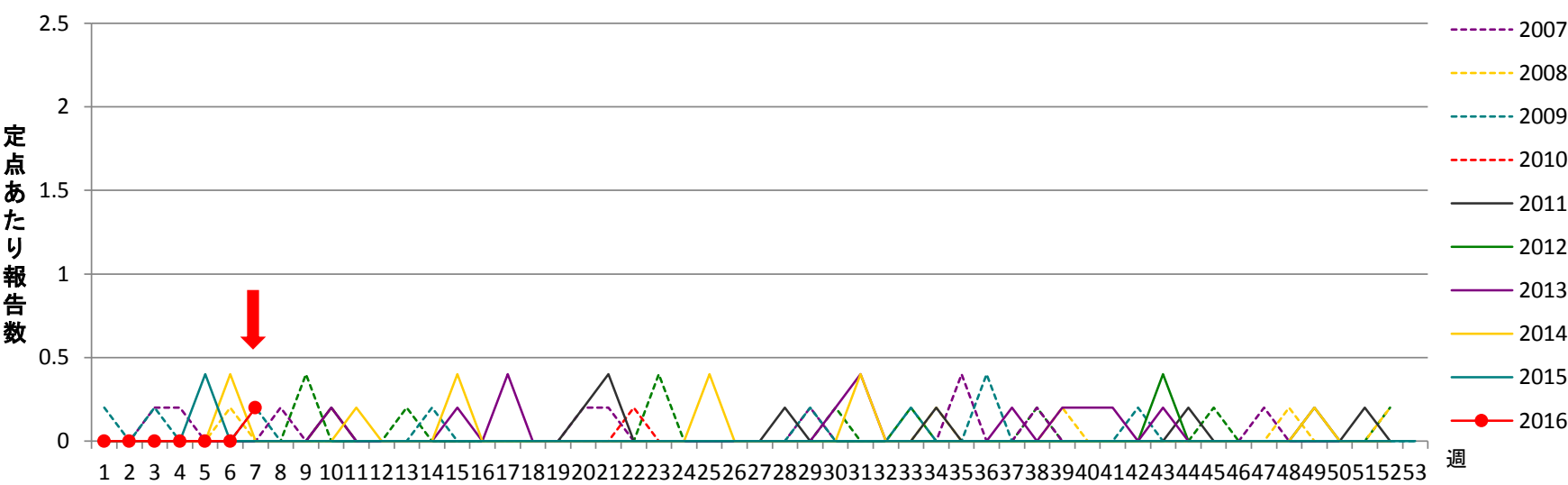
急性出血性結膜炎



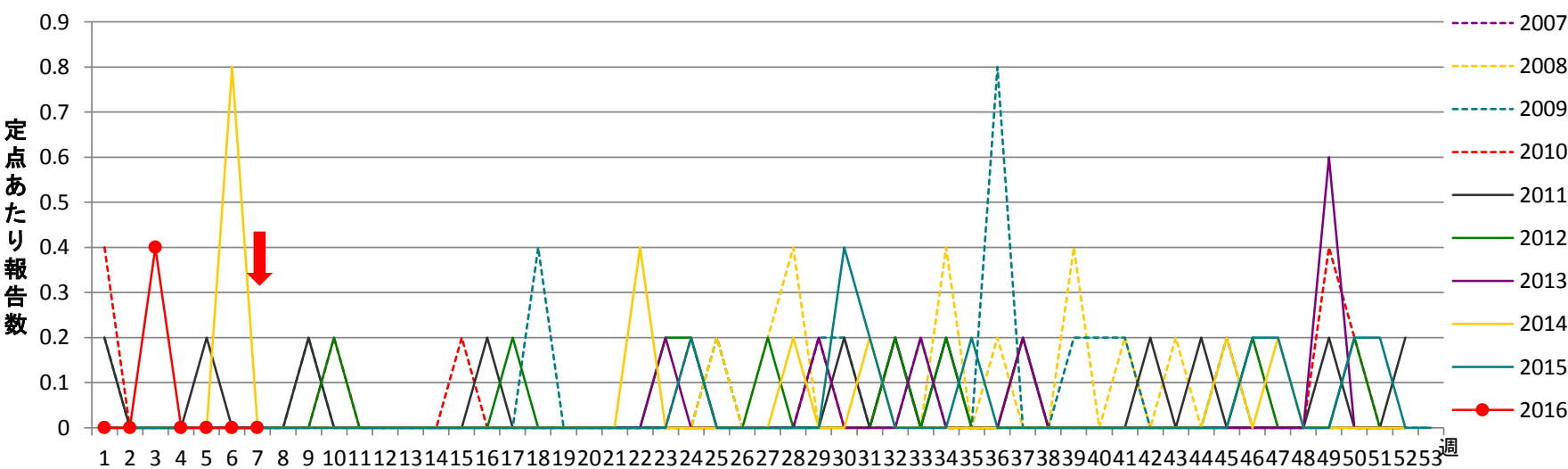
流行性角結膜炎



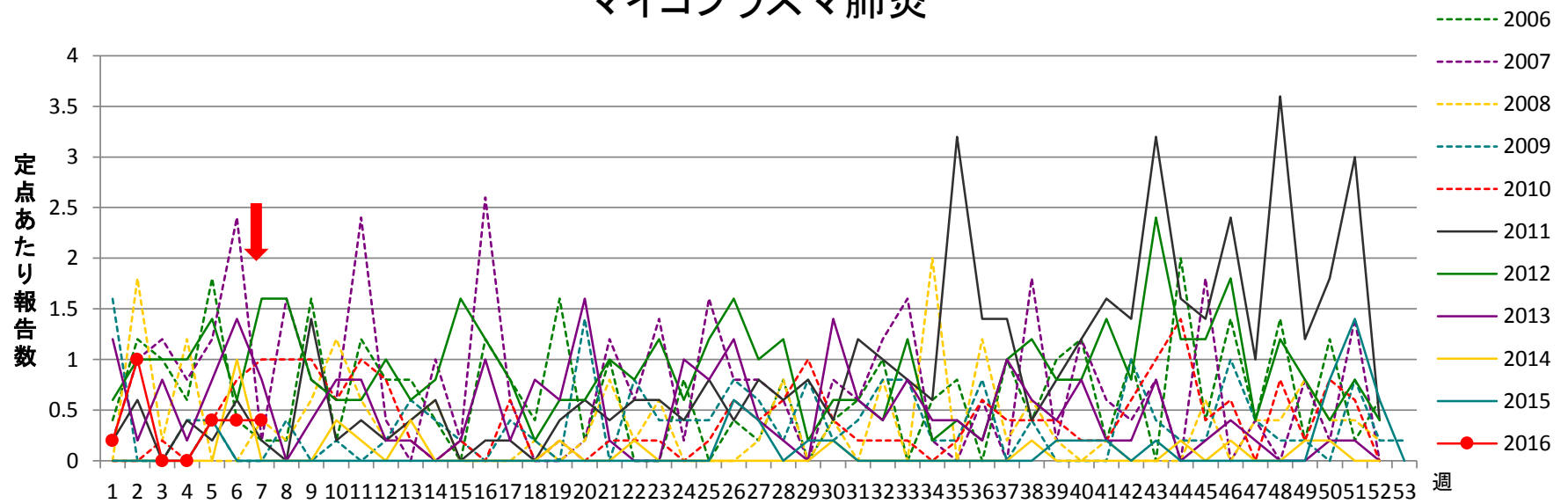
細菌性髄膜炎



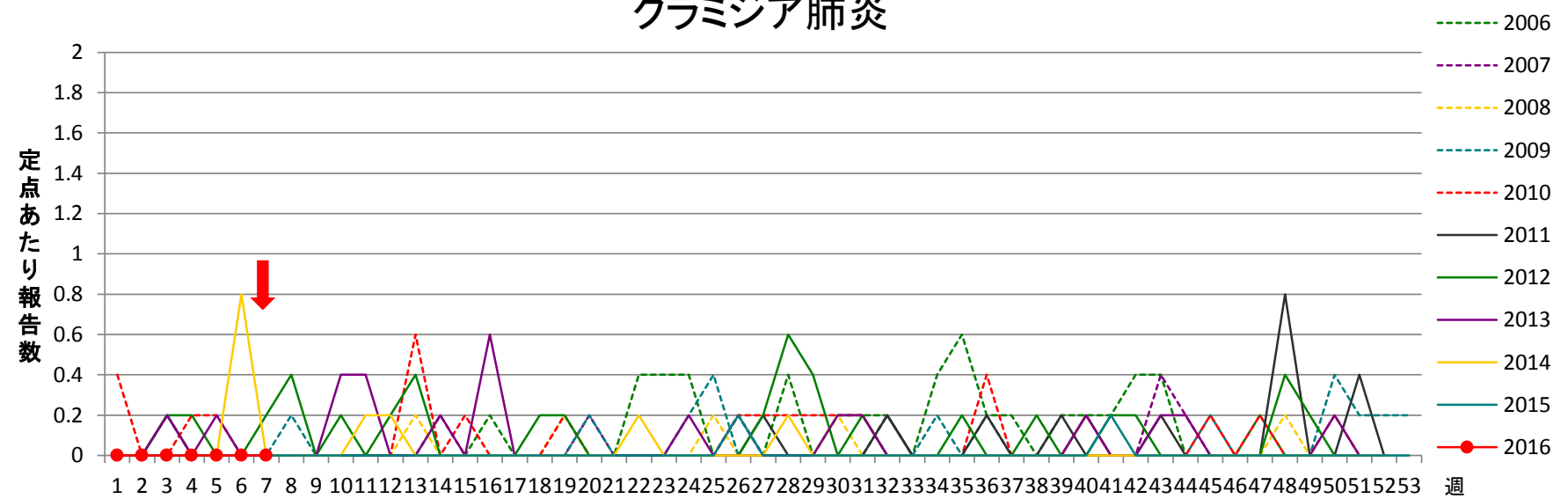
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

